

令和 3 年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	和歌山大学教育学部附属小学校	申請者氏名	中岡 正年
研究プロジェクト名	小学校教育における総合的な学習の時間を核とした SDG s の観点で思考する学習カリキュラムの作成		
当初計画に対する目標達成率	50 %	研究プロジェクトの終了時期	令和 4 年 3 月
予算配分総額	500,000 円	経費使用総額	165,906 円 (担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

和歌山県は放棄竹林が増加傾向にあり、棄竹林による被害が広がっている。このことについては和歌山市在住の児童を多く抱えている本校においても課題意識をもっている者は少ないと思われる。この現状について多くの方に周知されることは、放置竹林被害が和歌山県民全員の問題であるという意識が生まれ、今後も和歌山を拠点に活躍する子どもたちにとっても自分ごとの課題になると考えた。またプロジェクトを実施することにより、放棄竹林の減少につながることもなるとも考えた。さらに、放棄竹林の有効な活用方法を確立することは地域課題の解決になるだけでなく、新しい産業へとつながる可能性もある。

これらのことを小学生（本実践時 6 年生）が自分達にとって深い関係性があると考え、活動を行っていくことは、SDG s の観点を持ち、多くの教科・領域と連携をもって学習に取り組むことにつながり、小学校における総合的な学習の時間を核としてカリキュラム・デザインの作成を行うことになると考えた。

実践の成果として主に①②③にまとめた。

(成果)

- ① 総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・デザインの作成
- ② 実践的な SDG s をテーマにした学習を行うことによる子ども達の環境に対する意識の高まり
- ③ 本校と地域の団体が連携して実践を行うことによる人的・物的協力などの関係強化

まず、成果①についてであるが、本実践は和歌山大学の岡崎裕教授のご指導のもと構想を行い実践した。また、申請者が 6 年生の担任であったことから、小学校 6 年生の 1 年間の中でのカリキュラム・デザイン表 (図 1) を作成することが可能になると考えた。プロジェクト名にもあるように「小学校教育における総合的な学習の時間を核とした SDG s の観点で思考する学習カリキュラムの作成」であるが、本実践は国語科や外国語や特別活動などとの親和性が高く、1 年間を通して子ども達が多くの観点で学び、学習の転移がみられたと考えている。

次に成果②において、今回は新型コロナウイルス感染症の関係で多くの計画が実施できなかった。しかし、代替措置として校内の敷地にある竹林を用いて、実践を行うことにした。また協力をしてくださった「和歌山インフィニティ」の方がゲストティーチャーとして実践を行い、本クラスに 4 回ゲストティーチャーとして授業を行っていただいた。

これらの実践について体験を通して行うことによって、子ども達は SDG s に興味をもち、自分達の生活と関連をもたせて学習を深めることができた。これらのことは実践後の感想文などから判断した。

成果③においては成果②と重複することも多く、本実践において当初の計画通りにいかなかったが、人的、物的協力を得ることができた。一方、「和歌山インフィニティ」側としては小学生と実践を行うことで活動が広がったという肯定的な言葉をいただいている。

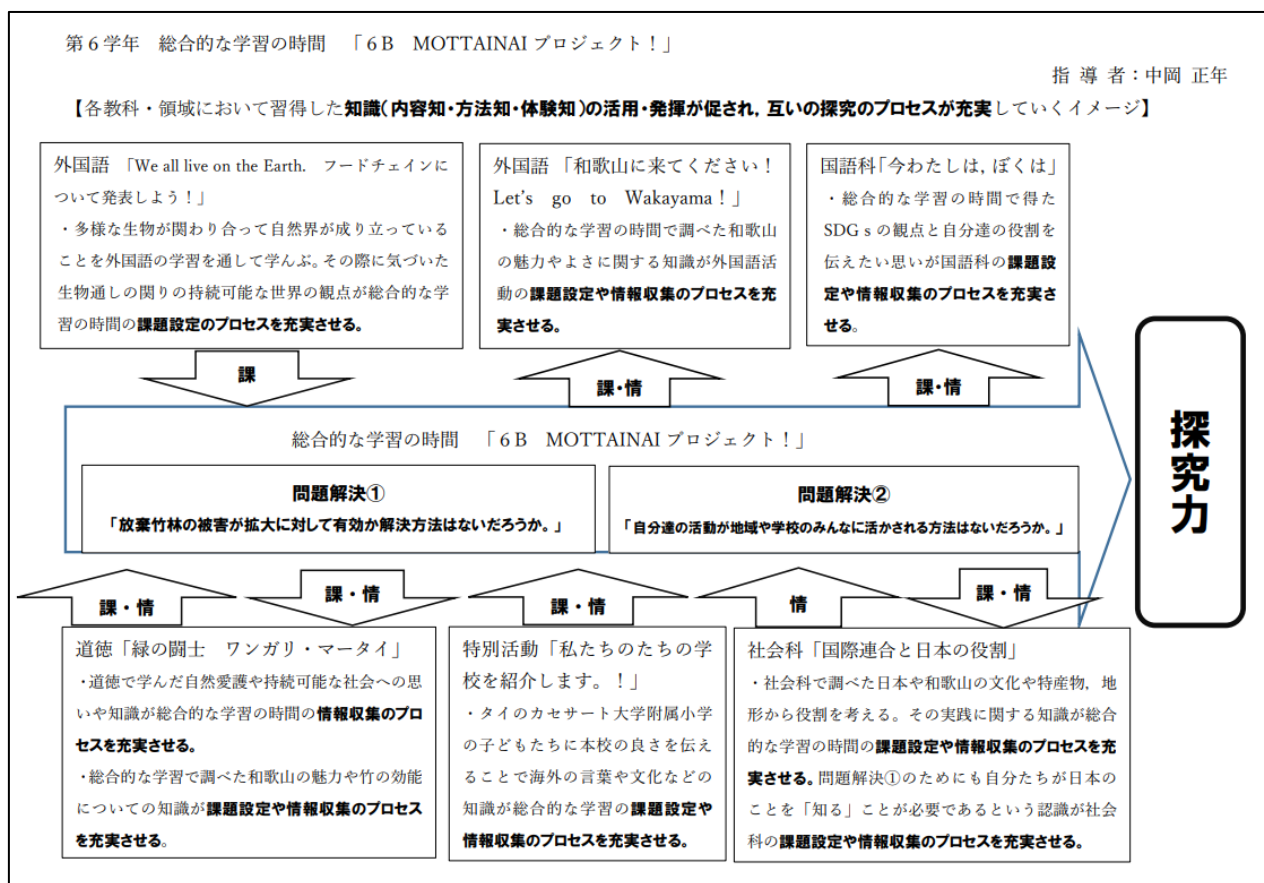


図1 実践をもとに作成した小学校第六学年におけるカリキュラム・デザイン表

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

当初の計画では、実際に和歌山市の竹林に実際に子ども達が行き、課題意識をもったうえで、現地での活動や地域において活動の発表を行うことを想定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって実践を縮小・代替しなければならなくなった。そのため、現地への移動や地域の活動、当初予定していたこと(図2)に対する突然の中止もあったため、計画の半分が実施できず、外部への発信なども断念せざるを得なくなったため、上記目標達成率であると判断した。

当初の計画案は以下の形であったが、新型コロナウイルス感染症による感染者数の増加傾向がみられ、外部組織との連携や現地にての学習を考えていた本実践の多くを行うことができなかつたために上記の目標達成率であったと考えている。

2021 年

6月中旬 地域課題（放棄竹林の害）について知る。

情報を収集し、活動している団体の話を聞く。※実施

7月 放棄竹林の伐採 ※校内にて代替の場所を設定し実施

9月 伐採した竹を炭に加工する。竹炭の活用を考える。※実施

10月 竹炭の加工（消臭剤やクールベジタブル用などに）※一部実施

11月 学校や地域への配布（販売）※一部実施

12月 今後に向けての反省と協議 ※実施

2022 年

3月 竹林の視察・協力団体の活動見学 ※未実施

6月 日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会にて発表予定 ※実施不可

図2 当初計画案

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

実践後の子ども達へのアンケート調査から、実体験を伴った実践によって、1年間を通して様々な教科や領域を関連させて学習を深めることができた。小学校高学年における総合的な学習を核としたカリキュラム・デザインの一例を示すことができたと考えている。

本実践は、総合的な学習が始まる小学校3年生からの実践はもとより、低学年などの生活科などにおいても発達段階を押しえて実施できることができようと考えている。また本校は中学校が隣接しているので、中学生においても行うことが可能ではないだろうかとも考えている。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

外部資金の獲得は行っていないが、本実践の趣旨に賛同していただいた団体の「一般社団法人わかやまインフィニティ」から多物資の貸与・提供、人的助力をいただくことができた。

本実践の協力を行っていただいた「一般社団法人わかやまインフィニティ」は日本全国において竹や筍などの再利用法などについて多くの団体と連携し先進的な取り組みの調査や活動を行っている。さらに、国産のメンマの生産や竹林の有効利用などの手法を確立している。これらの活動は本校の子どもにとって魅力のある人材であり教材であると考えられる。今後の協力についても了承をいただいているため、継続的な実践が可能である。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

本実践を通して、子どもたちは学級会で自分達が作成した竹炭を用いて消臭剤を作り、各クラスに配布したいと考えるにいたった。そのことにより、学校全体で本実践の取組が周知されることになった。

さらに、完全に実施はできてはいないが本実践のカリキュラム・デザイン表を該当学年で周知し校内で伝達講習を行うことを企画している。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

「外部資金等への申請実績及び今後の予定」においても記載しているように、外部連携先の獲得を行うことができ、また本校における継続的な協力を行っていただけることは本実践の成果であったと考えている。

○ その他特筆すべき事項

成果③に関連し実践後子どものふり返りを紹介する（図3）。

今回最後のもったいないプロジェクトをしてみて竹にはすごく使い道がいっぱいあって最初は何かを作るか迷ってしまったけど竹炭を作ってみて色々なクラスに竹炭を配るときに前で竹炭の効果や使い道を説明することで発表できる力もついたので色々なことにつなげることが出来ました。また次からはSDGsを守れるようにアルミやスチールなどはリサイクルしてコンビニの袋はマイバッグを持参してプラスチック用品をあまり使わないようにしたいです。

僕は、一年間を通して振り返ったことでやっぱり、今世界で問題になっているSDGsが、メインでした。そしてこれまでで、SDGsのことを何回かしてきたけど、6年のMotainaiプロジェクトでだいぶあまり考えたことがないところで使われていることが分かりました。それからぼくも統計グラフコンクールで、だしてみたりして、分ったことは今の時代で問題になっていることで、もっと考えて行動しないといけないと思いました。そしてこの6年の授業で、竹を燃やしてSDGsに近づけたと思いました。これらのことを、考えて大人になっても節約とかをしていきたいです。

図3 実践後の児童のふり返り 一部

実践を行った児童のほぼ全員が、本実践の有効性を感じており、さらに学習したことを自身の生活に活用している記述が多くみることができた。様々な教科・領域においてカリキュラム・デザインを行ったことが関係していると考えられる。

このような困難な状況下においても子ども達はその時にできる最善の方法を思考し、懸命に活動し学び続けてくれたことを特記事項としたい。

【成果の外部公表の方法及び時期】

2022年にて新型コロナウイルス感染症による感染者数が和歌山県内でも増加傾向にみられ、当初予定していた通りの活動を行うことができなかった。そのために当初予定していた「日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会」における発表の申し込みを行うことができなかった。よって本実践においては総合的な学習の時間を核として行っていたが、子ども達の学習から特別活動にあたる学級活動にても活動がみられたので日本特別活動学会第31回 研究大会 福岡大会において活動報告を行うことや次年度の発表を考えている。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。



1 いただいた竹炭を畑にまく。(課題設定)



2 協力団体による指導



3 竹の再利用について考える



4 竹炭を作る



5 竹炭から消臭剤を作る



6 作成された消臭剤と他クラスへの活動の報告



